

「もんじゅ」を動かすな！ 声明

特殊原子炉「もんじゅ」再開の動きに反対し 廃炉を求めます

核開発に反対する会(代表 槌田 敦)

福井県敦賀市にある、日本原子力研究開発機構の特殊原子炉「もんじゅ」は 1995 年 12 月 8 日に事故を起こし、15 年以上停止していましたが、昨今慌ただしく「もんじゅ」の 2010 年 3 月に再稼働が喧伝されていますが、「年度内」などというお役所の都合に合わせた計画で安全が担保できるはずもありません。

2 月 11 日には原子力安全保安院が、2 月 23 日には原子力安全委員会が再開を了承したと報道されました。まだ細かい試験項目が出来てもないのにマスコミは「安全宣言」と宣伝しています。いったいどういうつもりでしょうか。

地震の危険～真下に活断層あり

「もんじゅ」の敷地の地下には活断層があります。活断層を想定した審査をしていると言いますが、地震学者は地震の規模想定精度が悪いことを憂慮しています。いくらコンピュータで計算をしても、元の条件が不明確なら結果は不明確となるのは当然です。精度の悪い地震想定で導き出された耐震性能もまた精度が悪いと言わざるを得ません。地震でこわれる心配のある、活断層の上の原発を運転するなど、正気の沙汰ではありません。

ズサンな改修と老朽化の進行

15 年前の「もんじゅ」事故の後、安全に改修したと宣伝されますが、根本的な改造をするほどの手間と予算は掛けていないため、事故発生懸念は拭えません。

2003 年名古屋高裁での設置許可取消判決で指摘された安全審査の不備なども解消されている訳ではありません。更に、15 年間の長期停止期間中にもんじゅは老朽化しました。排気ダクトが錆びて穴が空くような状況です。15 年もの間停止していた原発を動かす例は世界にありません(日本にもありません)。そんな原発を動かすことを優先し、穴のあいた排気ダクトの交換すら後回しにして運転を再開しようとするようでは、安全文化の枯渇です。

実用化しない技術に無駄遣い

政府は、高速増殖炉の実用化予定は 2050 年だといっています。現在から 40 年も先の話です。そもそも高速増殖炉は戦後米国で最初の発電用原子炉として企画されて以来、既に関発に 60 年以上掛かっています。都合 100 年とは関発期間が長すぎです。

これほど長い期間、実用化しないということは関発の根本が間違っている証拠です。

既に「もんじゅ」には巨額の税金(約 1 兆円)がつけ込まれています。「事業仕分け」でムダと判定されました。にも関わらず、今後 40 年も税金の無駄遣いを使い続けるのでしょうか。

「もんじゅ」が存在するだけで毎日 6000 万円もの予算が使用されています。無駄な支出である「もんじゅ」は廃止するべきです。

核兵器材料の製造は大問題

「もんじゅ」は長崎型原爆の製造に適した高純度プルトニウムを年に 64kg 生産する予定になっています。同位体 239 の純度の高いプルトニウムは「兵器級」と呼ばれ、国際社会では核兵器に使用される物質として大きな意味を持ちます(警戒される)。一方、エネルギー源としては年に高々 64kg くらいでは全く意味がありません。

核武装準備をしている国々に「日本もやっているではないか」と口実を与えることになります。

非核三原則を標榜し、核廃絶を国是とする日本のやることではありません。

通常の前発よりも更に危険で無駄な原子炉「もんじゅ」の廃炉を求めます

核関発に反対する会

連絡先：〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-2-13-502

TEL 03-3261-1128(午前中) FAX 03-3238-0797

HP <http://kakukaihatsu-hantai.jp>

Eメール mail@kakukaihatsu-hantai.jp